

セミナー通信

V o l . 1 8 2

西村セミナールーム

主宰 西村 恵子

“わかる”ことにこだわる勉強の大切さー講師西村の就活より

「きつかったあ・・・。」帰宅した息子の第一声。中1、中2の塾生諸君には全くなじみがないでしょうが、中3生を私と一緒に担当している長男です。大学院2年のため今春就職活動をしました。中3の諸君にはおなじみのあの陽気なキャラゆえ、物理専攻の研究職志望にもかかわらず、面接では「なぜそんなに元気がいいのかね？営業希望かね？」と言われたことも。いつも面接では「ありのままの自分を出してくる。」と出かけ、「楽しんできた。」と帰ってきていた彼でしたが、この日は様子が違いました。かなり疲れ切った様子です。

この日はある会社の最終面接でした。一般面接、技術面接（研究内容についての面接）と無事パスしてきたの最終。ところがここで技術のボスのような人が登場してきて、かなりきつい面接を行ったというのです。「僕は化学の人間だから、君の研究内容の説明はよくわからない。もっとわかりやすく説明して。」と。（なんで物理の俺に化学の人が面接するんだよお）と心の中でちらりと思いつつ、すぐに「すみません。」と謝ってわかりやすく説明し直し、納得していただいたそうです。その後も細かくつつこまれ、一応全てきちんと説明できたものの、本人いわく「受かった気がしない」面接でした。彼の前に面接を受けた学生は、「式の意味を聞かれて答えられなかった。」と落ち込んでいたと言います。その後のインターネットの書き込みにも、この会社に関しては「最終面接でやらかしてしまった」というものが続出し、本当に厳しい面接だったことがわかりました。

一週間後、無事内定の通知をいただき、他にも数社の内定をいただいていた中、この厳しかった会社でお世話になることを決めました。同じ日に面接を受けた学生の名前は内定者名簿になかったと言います。どこで明暗が分かれたのか、面接官に聞かなくては本当のところはわかりませんが、これまでの勉強への取り組み方が最後にこういう形で現れたのではないかと想像しています。まがりなりにも彼も西村セミナールームの卒塾生で、論理的思考力は徹底的に鍛えられました。“丸暗記”ではなく“わかる”ということにこだわってきて、それが大学での研究にもいかされたと本人も言っています。個人の能力差はありますが、今、“わかろう”と粘り強く考えることが誰にも必要です。これは将来どんな職業に就いても必ず役に立つでしょう。

講師西村は、4月から京都のGSユアサコーポレーションに入社します。中3の塾生諸君が彼の最後の生徒になります。5年間で彼が指導した塾生は、100%第一志望校に合格しました。今年も全員合格して一緒に気持ちよく卒塾できるよう、ともに全力で頑張りましょう。